オリンピック・パラリンピックの力

何事においても準備とはとても大切なものです。それが世界中からお客様がやってくるスポーツと文化の祭典なら尚更でしょう。現在日本では来たる 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、政治、デザイン、建築…挙げれば数えきれないほど様々な分野のプロフェッショナルたちが着々と準備を進めています。普段は当然ながらそういったプロフェッショナルに交ざることのできない私たち子どもですが、なんと、オリンピック・パラリンピックにおいては、私たちも祭典を盛り上げる一要因としての立場に立つことが叶うのです。

その例のひとつが、今回取材させていただいた『東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けたポスター企画』です。この企画は学校や子どもたちのオリンピック・パラリンピックへの関心を高めることを目的とし、小・中学校、特別支援学校、海外の日本人学校などに在籍する児童・生徒が東京大会に期待することをポスターで描くプロジェクトです。今年は『〜知ろう！観よう！応援しよう！〜東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に抱く私の夢』というテーマで募集され、各地から 1 万 4396 点もの応募がありました。今回金賞を受賞した作品にはそれぞれ、車椅子競技について調べたことを踏まえた細かい描写が用いられたり、色々な世代の人に選手を応援してほしいというメッセージや、自分を超えていけという選手への応援の気持ちが込められていたりと、様々な工夫がされていました。こういった数々の作品について、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会メディア委員会会長の日枝久さんは「メディアの立場から東京オリンピック・パラリンピックを成功させようと、プロの目から見て良いものを選びました。ポスターが日本を盛り上げてほしいです」と話します。小・中学校生が描いたポスターが国を盛り上げる要因として期待されるというのは、普段国単位で主体的に取り組めることがあまりない子どもたちにとって、自分も何かオリンピック・パラリンピックを盛り上げられるものにチャレンジしてみたいという興味や勇気に繋がるのではないでしょうか。

東京オリンピック・パラリンピックの大会マスコットが小学生の投票によって決まったことは、皆さん記憶に新しいことかと思います。私はこの取り組みも、子どもたちが大人と同じように主体的にオリンピック・パラリンピックと向き合うきっかけをくれたものであると感じています。自分たちがクラスで話し合って出した結論が大会マスコット選びに直接影響したというのは、後に東京オリンピック・パラリンピックを振り返るときの大きな財産になるはずです。

オリンピック・パラリンピックには国籍や障害の有無だけでなく、大人と子どもの興味関心や意識の違いまでもを越えて人々をひとつにする力があるのです。